

基本計画 主要施策の名称「人財育成・発掘」について

第1章第1節の主要施策の名称「人財育成・発掘」の「人財」の表記について検討するもの。

1 主要施策の名称「人財育成・発掘」の「人財」について

(1) 事務局（案）で「人財」と表記した理由

人づくりはまちづくりのあらゆる分野の礎であり、芦屋町に関わるすべての人は貴重な財産。人を「宝」として考えるため、常用の「人材」ではなく、当て字の「人財」とした。

(2) 一般的な「人材」と「人財」の定義

「人財」について明確な定義はない。「人材」「人財」についてインターネットなどに掲載されている考えなどを以下<参考>に記載。

<参考>

①【人財】「財：財産・富」

- ・「人財」の意味は、「人材」とは違い、はっきり決まっているわけではありません。辞書にも記載されていない比較的新しい言葉ですが、大まかな意味合いは、「会社にとって人は資産である」といったものになります。「人財教育」「人財育成」「人財登用」など、基本的な使い方は、「人材」と違いはありません。
- ・「人財」とは、人は会社の経営資源である財産であるという意味を持つ言葉です。会社にとって利益を生み出す存在であること、また、会社がその人に投資した場合に発生する利益まで含めていると考えられています。英語に訳すと「Human capital」という言葉であり、お金の意味合いが強いです。現在では、人は会社にとって宝（財宝）であるという意味を込めて人財という書き方をあえて使う経営者もいます。
- ・「財」はその希少性・独自性から代替がきかない。「その仕事はあなたでしかできないね！」と言われる人は、代替がきかないゆえに「人財」である。

②【人材】「材：役に立つ素質・能力」

- ・「人材」とは、「才能があり、役に立つ人」という意味の言葉です。主に仕事において高い能力を持ち、組織にとって役立つ人物を言います。「わが社には優秀な人材がそろっている」「リーダーシップをとれる人材を求めている」「人材不足が深刻だ」のように使われます。
- ・人材とは、そもそも会社にとって必要な存在であるものです。また、「材」には「才能」という意味もあり、人材の意味にも反映されています。実務を適切に処理できる実力がある人を表しているのです。英語では「Human resource」と表記されます。
- ・人「材」は若くて安い労働力、もしくは機械に取って代わられ、飽和していく。「その仕事はあなたがやっても、ほかの人がやっても同じ」と言われてしまう人は、代替がきくゆえに「人材」である。

[参考文献]

社会人の教科書 社会人のためのビジネス情報マガジン

<https://business-textbooks.com/jinzai-difference/>

株式会社MS-Japan (エムエス ジャパン)

<https://www.jmsc.co.jp/corporate/recruit/41/>

ITmedia ビジネス ONLiNE

<https://www.itmedia.co.jp/makoto/articles/1109/28/news014.html>